

ジョイエス

生活者・生産者をむすぶ生活クラブ（エス）を楽しみ、
参加する（エンジョイ&ジョイン）ための情報提供がジョイエスの役割です

生活クラブ 東京

2025
5
May



特集

企画報告 ピアふえすた 2024

ひとりの「わがまま」から、 みんなの「それな！」に換えていくまちづくり

地域の食のセーフティーネット「おふくわけ」

組合員が注文し必要な人に食の支援を届ける「おふくわけ」。
2024年度に実験取組を行い、生活クラブ東京ではフードバンクTAMAを通して
活用されました。2025年度も6月・11月・2月に取り組み予定です。
地域内での支援の輪をひろげる活動にぜひご参加ください。



第1回 取組 おふくわけ米 1口 500円以下(調整中)
注文をまとめて 5kg 単位でフードバンク TAMAに届けます

2024年度取組み報告・
最新の情報はこちら

配送 6月4回(25週)企画 注文書提出締切 6月16日～20日
※eくらぶ、生活クラブアプリからお申込みできます

デポ 申込受付期間 6月9日～20日
デポーのレジでお申込みください

神奈川県相模原市でソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）に取り組むさがみこファーム。
地域共生をテーマに、耕作放棄地を活用しながらブルーベリー農園の運営と太陽光発電を進めています（関連記事 P2）

組織の概要

(2025年3月末現在) ●組合員数(デポー含む)93,074人 ●3月度加入749人／脱退761人 ●3月度利用高18億86万円／世帯当り24,966円(デポー除く)



ひとりの「わがまま」からみんなの「それな!」に換えていくまちづくり



▲107人(内オンライン42人)が参加しました

生活クラブの活動は、自分で考え行動する(自治する)ことを基本とし、ローカルSDGsの実現に向けて「サステナブル(持続可能)な生き方」を選択し、お互いにたすけあう社会をめざして「生活に必要な社会機能をつくる運動」を、自分たちで実行してきました。暮らしが政治に直結していることを組合員が実感し、まちづくりの主体となっていくため、2021年度より生活クラブ東京全体で3つの共通テーマ(①地場産・地域農産物の供給・活用の促進、②子どもの育ち・参加の促進、③エネルギー自給の向上)についての政策提案運動をすすめてきました。生活クラブ東京がメンバーとなっている生活クラブ運動グループ*・東京連絡会主催のピアふえすた 2024(2024年12月21日開催)で地域での政策提案運動の取組みを共有し、講演を通してひとりの声が政治を変え、社会を変える力になることを確認しました。

*生活クラブ運動グループ:生活クラブを母体に生まれたNPO法人やワーカーズ・コレクティブなどの活動団体

基調講演

「わがまま」からはじまる社会づくり

20代～40代の半数以上が「デモの主張は偏っている」と考えています(「生活と意識に関する調査」シノドス国際社会動向研究所2019)。また、年代に関わらず思想や行動が「偏ってはいけない」と考える人はとても多いのですが、そもそも人は生まれた時から偏って(異なっ)ており、全く平等ではありません。政治を通じた利害追求は、不平等な社会においては当然の権利です。

それにも関わらず社会運動が遠く感じられるのは、「個人化」がすすみ「自己責任論」が強い社会では、政治を通して自らの苦境や困難を解決しようとするのが「責任転嫁」と受け止められる不安があるからではないでしょうか。

生活クラブが実践している消費者運動は、身近なテーマで社会運動に参加する重要なステップになります。小さな「困りごと」を見逃さず、声をあげる経験を重ね、少しずつ自分の生活圏を変えていく。そうした成功体験によって縁遠かった政治参加や社会運動が怖くなくなっていく。ただ、社会運動をしている人ほど自分を小さく・社会を大きくみなす傾向にあるため自己評価が低く、生活圏での取組みならではの大変さもあります。社会はみんなのものであり、誰がやっても・やらなくてもいい。そのくらいの立ち位置で、小さい達成を大事に、疲れないやり方を模索しながら、身近な地域や家庭、職場や学校から政治や社会に対して意見を言っていきたい。



立命館大学 産業社会学部
准教授 富永 京子さん

東京の農業を守り育てる ～地場産・地域農産物の供給・活用の促進

東大和市の学校給食を考える取組み

「東大和市でもオーガニック給食にしていきたい」という声を受け、まずは関心がある人をつなげていこうと動き始めました。そんな中、2024年1月に埼玉県の中学校で複数の生徒が病院に搬送されたとの報道があり、その原因が隣接した畑の農薬であったと聞きました。畑の多い東大和市でも他人事ではなく、市内の農業を安全なものにしながら、安心して食べられる地場野菜を学校給食で使えないかと考え、活動を始めました。

学校給食センター見学や学習会、学校給食に野菜を提供している生活クラブの提携生産者の畑見学などを通して、課題と国内外の動き、生産者の状況について理解を深めていきました。活動を通して思いを同じくする人が集まり「東大和市の給食良し隊」を結成。今後も食や環境、子どもの育ちなど、大事にしたいことを共有しながら活動を進めていきます。

報告:東大和・生活クラブ運動グループ地域協議会



東大和・生活クラブ
運動グループ地域協議会
政策担当 関 綾子さん



▲あらはたやさい学校(武蔵村山市)を訪問して生産者と交流しました

子どもにやさしいまちづくり

「子どもにやさしいまちづくり」に関する活動報告

杉並区・生活クラブ運動グループ地域協議会では「子どもの権利条例制定」に向けて、約25年にわたり粘り強く活動を続けていました。2022年、杉並区で岸本聡子区長が誕生し「子どもの権利条例」制定の取組みが開始。子どもの権利擁護に関する審議会が設置され、私は審議会に区民委員として参加することになりました。地域協議会で実施した学習会や意見交換会で出た意見を審議会に届けることができ、私たちの声が区長に提出した答申案に反映されたと考えています。その後、答申案をもとに作成された「(仮称)杉並区子どもの権利に関する条例」骨子案のパブコメ提出直前の学習会には新たな組合員や区民の参加もあり、活動がひろがりました。今回の一連の活動はその積み重ねのたまものだったと感じています。

また私は、生活クラブの活動をしていなければ経験しなかったであろう審議会への参加を通して、地域の仲間と活動するおもしろさを味わい、暮らしと自分の関心事が区政につながっている実感と、世の中を見る新しい視点を獲得することができました。

報告:杉並区・生活クラブ運動グループ地域協議会



まちすぎなみ北
向井 温夏さん



▲区内の小学校のイベントで子どもの権利に関するアンケートを実施

生活クラブ運動グループが連携した政策提案活動

介護保険制度への意見提出

NPO法人ACTが設立したのは1992年。当時は介護保険制度もなく、日常の家事や介護、子育てなどで手助けが必要になった時、お互いたすけあえるように生活クラブ組合員が立ち上げ、自立援助サービスを始めました。都内各地のACT運動グループの団体と連携し、たすけあいのまちづくり活動を進めています。

2000年に「介護の社会化」を掲げた介護保険制度ができましたが、改定のたびに給付抑制と利用者負担増が繰り返され、当初の目標から後退しています。現状の改善には国に現場の声を届けることが必要と、働くメンバーや利用者の声を集め、署名運動や政策提案活動に取り組んできました。介護保険制度の課題を広く共有するための「介護の日フォーラム」や国会議員が参加し厚生労働省に直接要望する「院内集会」も開催しています。これらの活動を通して「要介護1・2を総合事業に移行する(介護給付の対象外とする)こと」「ケアプラン有料化」などの改定の先送りを実現してきました。

2024年度の改定で訪問介護の基本報酬が引き下げられ、訪問介護事業所が廃業に追い込まれています。訪問介護の基本報酬引き上げを求める要望書を生活クラブ運動グループが連携して厚生労働省に提出しました。要望の実現に向けて一丸となった活動を続けていきます。

報告:NPO法人アビリティクラブたすけあい(NPO法人ACT)



NPO法人ACT
理事 山木 きょう子さん



▲訪問介護の基本報酬引き上げを求める要望書を提出(2024年9月30日)

生活クラブ運動グループがめざす 東京政策 2025

- I. コロナ禍の経験を活かした感染症対策を求める
- II. 食料主権と食の安全施策を推進する
- III. 食の自給圏づくり
ー持続可能な東京の農業を守り育てる
- IV. エネルギーの自給圏づくり
ー東京のエネルギー転換で、地域分散型社会をつくる
- V. 化学物質を減らし、資源循環型社会をつくる
- VI. ケアの自給圏づくり①
ー子育て育ち応援、安心して産み・育てるためのしくみをつくる
- VII. ケアの自給圏づくり②
ー誰もが安心して住まい続けられるまちをつくる
- VIII. 非営利・協同セクターとの連携を強化する
- IX. 非戦と共生、憲法9条の視点から、立憲主義を守り、安全保障関連法の廃止を求める

地域から市民自治の実現を

身近な生活の中の「困った」は、自分で解決するものと思うかもしれませんが、同じ地域の人と話すことでよりよい解決方法や共感者が見つかったり、相手には見えなかったことの気づきになったり、生活や社会の改善につながる一歩になることがあります。地域協議会で募集している「ひとこと提案」はそのような「小さな声」を見逃さない手段のひとつ。そういった身近な声を大切にし、話せる場が生活クラブにはあります。

生活クラブ運動グループ・東京連絡会では、市民自治を広めていくため、各団体から提案されたひとこと提案や地域でまとめられた地域政策をもとに、4年ごとに「東京政策」を策定し、その実現に取り組んできました。私たちは当事者として「生活クラブ運動グループ東京政策2025(2025～2028年)」を提案し、市民主体の自治するまちづくりを推進していきます。地域から行動することで、東京を変えることをめざしていきたいと思います。

生活クラブ運動グループ・東京連絡会では、市民自治を広めていくため、各団体から提案されたひとこと提案や地域でまとめられた地域政策をもとに、4年ごとに「東京政策」を策定し、その実現に取り組んできました。

私たちは当事者として「生活クラブ運動グループ東京政策2025(2025～2028年)」を提案し、市民主体の自治するまちづくりを推進していきます。地域から行動することで、東京を変えることをめざしていきたいと思います。



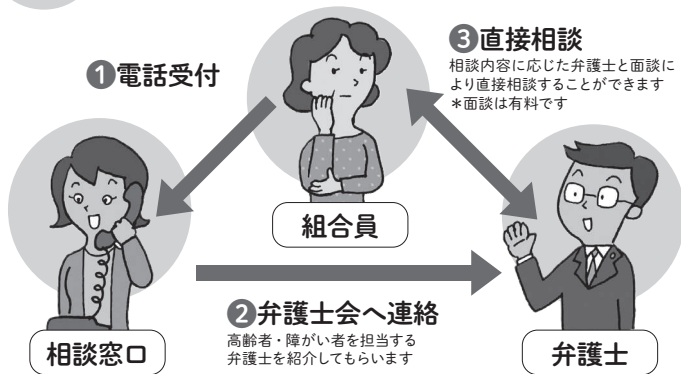
生活クラブ東京
副理事長 豊崎 千津美さん

あなたの「困った」「どうして?」が 地域を良くする!

各地域で「ひとこと提案活動」や「まちカフェ」を開催しています。詳細はまち広報紙などをご覧ください。



高齢者・障がい者のための相談窓口



組合員およびその家族で高齢者・障がい者の方が、成年後見制度、財産管理、介護契約、サービス不服申立、遺言作成等に関する相談ができるように「第二東京弁護士会」と連携して、高齢者・障がい者の方を担当している弁護士（有料）を紹介する相談窓口です。受付事例として、成年後見と相続に関する相談が多くあります。また、将来の不安に対する準備としての相談などもあります。

●受付事例の紹介

父親が亡くなり、母親が認知症なので、成年後見と相続に関する相談をしたい。	父親が認知症に…。しかし、後見人でないため、定期預金解約できずに困っている。	母親の後見人になりたいが、兄弟に反対されている。誰かに相談したいけれど…。
--------------------------------------	--	---------------------------------------

相談窓口	生活クラブ共済連 TEL 03-5285-9031 受付：毎週木曜日（祝日を除く）10：00～16：00 ※別途、夏季休業期間など不定期にお休みがあります
------	---

3月 理事会報告 議事抜粋

●生活クラブカウンターでの拡大活動推進について ●第57回通常総代会の開催について ●員外理事の選出について ●2025年度生活クラブ生協・東京の顧問契約について ●次期東京役員体制に関する2025年度第1回理事会への申し送りについて ●第17回ワーカーズ・コレクティブ全国大会 in TOKYO への協賛について ●東京事業および各専門委員会の2024年度総括・2025年度方針について ●2024年度長期住所不明組合員の自由脱退（みなし自由脱退）公告結果と今後の手続きについて ●2025年度デポー業務委託料の考え方について ●デポー国領駅前のマネージャー交代について ●生活クラブ運動60年史「生活クラブ運動史・オーラルヒストリー」の作成・発行について ●保育園ぼむ・砵の目的別積立（福祉事業積立金）の取崩しについて ●「生活クラブ保育園ぼむ 経理会計処理実施要領」の改定について ●居住支援事業の2024年度総括ならびに2025年度方針について

東京理事の リレーコラム

原子力発電所はいらないという意思表示を！

3月8日、代々木公園で開かれた「さようなら原発全国集会」に参加し、国際環境 NGO FoE Japan の若者を先頭に「命を守ろう」のシュプレヒコールをしながら渋谷駅まで歩きました。すれ違うたくさんの方たちの何人かでもいい、この思いが届いてほしいと願いました。3.11 東京電力福島第一原発事故後、国内の原発はすべて停止された時期がありましたが、現在は7発電所12基の原発が稼働しています。第7次エネルギー基本計画でも、原発のベースロード電源としての位置づけは変わりませんでした。

映画『原発をとめた裁判長』の主人公である樋口英明氏は、著書『原発と司法 国の責任を認めない最高裁判決の罪』（岩波ブックレット 2025年）の中で、私たちが「原発の問題は難しそう」とか「それなりに安全に作られているはずだ」と思ってしまうのは、私たちの思い込みすぎないといい、その理由をわかりやすく説明しています。地震大国である日本が原発を抱えること自体、危険極まりないことなのです。ならばなくしたい、この素朴な思いを貫きたいです。家庭で使う電気の源を選べる時代になりました。未来の希望が見い出せる電源は、原発よりも、化石燃料よりも、再生可能エネルギーです。6月から「生活クラブでんき めざせ2万人キャンペーン」がはじまります。切り替えることで、原発はいらないことの意味表示をしていきましょう。

（生活クラブ東京 理事長 加瀬 和美）



展示即売会

スーツ・ジャケット・ワイシャツのお仕立て

新柄が豊富です。この機会に新調しませんか？
ジャケット、パンツ等単品の注文も承ります。
約4週間でお届けします。

●デポー-東村山 展示会

5月17日（土）18日（日）10:30～17:30
会場：デポー-東村山（東村山市久米川町3-32-44）
TEL：042-399-7151

●デポー-いたばし 展示会

5月24日（土）25日（日）10:30～17:30
会場：デポー-いたばし（板橋区徳丸2-30-16）
TEL：03-5922-5444

●デポー-町田 展示会

5月31日（土）6月1日（日）10:30～17:30
会場：デポー-町田（町田市成瀬が丘2-27-1）
TEL：042-706-0360

展示会関連

TEL 03-3324-4502（10:00～16:00）
定休日：火・水・日 ※5/5（月）は臨時休業

●かたやま工芸ジュエリーフェア

5月13日（火）～18日（日）11:30～17:00
※最終日は16:00 閉場
会場：Gallery KAZE（武蔵野市吉祥寺南町1-18-23）
年に一度のお得なジュエリーイベント。様々な希少石を使用した、個性豊かな新作ジュエリーを取り揃えております。

●きく屋宝石店 夏の宝飾展示会

6月6日（金）10:30～20:00
7日（土）10:30～19:00
8日（日）10:30～18:00
会場：東京交通会館12階カトレアサロン（千代田区有楽町2-10-1）
毎年恒例！生活クラブ組合員とご登録のお客様限定の特別な展示会です。数多くのジュエリーを取り揃えてお待ちしております。

●天地堂 ランドセル

2026年モデル発売！ランドセルお買い上げの方にもれなく「防水用ランドセルカバー」をプレゼント！カタログご希望の方は、お電話または二次元コードよりお申し込みください。



事業部
TEL 03-5426-5206

協同村

豊かな自然の中で、農業体験やキャンプなどが楽しめる生活クラブの施設です

入材料：510円（4歳～小学生310円）
駐車料：600円／1日

【ワーカーズ・コレクティブ草の実主催企画】

●ソーセージ作りと石窯パン

5月10日（土）10:00～15:00
参加費：2,600円／1人
羊腸とセロハンでソーセージを作り、石窯で焼いたパンに挟んで食べます。オプションでお昼にピザもあります。（要予約・別料金）

●石窯貸だし用のための講習会！

5月11日（日）10:00～15:00
参加費：5,000円／1人
石窯の使い方を学び、自分だけで使いこなすための講習会です。

●手もみで美味しい my 紅茶を作ろう

5月18日（日）10:00～15:00
参加費：2,200円／1人
お茶の葉を摘んで my 紅茶を作ります。石窯でパウンドケーキも作ります。オプションでお昼にピザもあります。（要予約・別料金）

●石窯ピザ焼き体験

6月8日（日）22日（日）11:00～13:00
参加費：1,700円／1人
ピザ生地を伸ばしてトッピング。石窯に入れて焼きます。

●はちみつ絞りとミツバチの話

6月22日（日）10:00～11:30
参加費：1,500円／1人
締切：6月8日（日）※希望者多数の場合は抽選
生産者がミツバチの話をしてくれます。はちみつ絞りの体験も。お土産付き！オプションで遊ぼうパン（300円／人）もあります。

【NPO 法人地球野外塾との共催企画】

●ポケットナイフ徹底活用 デイキャンプ

5月25日（日）10:00～16:00
参加費：5,000円／1人
マルチツールナイフを使いこなそう！

●手作りランタンでホタル探し

6月15日（日）13:00～20:30
受講料：5,000円／1人
自作ランタンを持って夜道を散策し、ホタルを探しに行きます。

協同村ひだまりファーム

あきる野市戸倉863
TEL 042-596-0103 休村日：火・水

生活クラブの学校

受講料は組合員価格（記載のない場合無料）
オンラインの記載がない場合は会場のみ
会場記載がない場合は生活クラブ館（世田谷区宮坂3-13-13）開催

【NPO 法人コミュニティスクール・まちデザイン（CS まちデザイン）との共催企画】

食農共育講座

●子どものための食育講座

キッズたべものラボ～Let's cook！～
5月25日（日）10:00～11:45 Aクラス
6月1日（日）10:00～11:45 Bクラス
講師：松元恵さんほか（CS 料理講師）
受講料：4,800円
年長さんから小学生を対象とした、全4回の料理講座が始まります。1回ごとにお申込みいただけます。1回目のメニューは「ピザトースト」と「コーンチャウダー」です。

●なぜ日本は原発を止められないのか （オンライン併用講座、アーカイブ受講可）

6月7日（土）13:30～15:30
講師：青木美希さん（ジャーナリスト、作家）
受講料：2,000円
日本のエネルギー政策は再び原発推進に舵を切りました。脱原発を阻むものは何か、私たちはどうしたらいいのか、一緒に考えましょう。

●家庭の食医～季節の養生法～

6月10日（火）10:30～12:30
講師：中島玲子さん
（漢方薬・生薬認定薬剤師、国際中医師、国際中医薬膳管理師）
受講料：2,800円
月1回開催。今回は五臓と関わりのある「筋・血脈・肌・皮毛・骨」で、起こりやすい症状について学びます。6月のテーマは「夏の養生法～血管力アップで巡りの良い体質へ～」です。

NPO法人CSまちデザイン
TEL 03-5426-5212

【ACT(アクト) 運動グループとの共催企画】
受講料：3,000円／回 ※ACT 会員無料（年会費3,000円）

ACTの地域育て・自分育て講座（全14回）

●第1回 コミュニティケアとACT安心ネットワーク構想（オンラインのみ）

6月3日（火）14:00～16:30
講師：豊泉惣子さん（NPO 法人 ACT 理事長）
誰もが尊厳と生きる喜びをもって安心して暮らし続けられるまちづくり。組合員同士のたすけあいから広がった ACT の取り組みを紹介します。

●第2回 暮らしの中の言葉にされないニーズを知る～関係を深めるための話の聴き方～（会場のみ）

6月24日（火）14:00～16:30
講師：檜谷照子さん（保健師）
その人が生活していく上での本当のニーズは何か、その人らしく暮らしていくために必要なものは何か、どのように関係を築いていってらよいかを学びます。

NPO 法人アビリティクラブ
たすけあい（ACT）
TEL 03-5302-0393

※ご記入いただいた情報は目的以外、または次の条件以外では第三者に開示しません。

①ご本人の同意がある時 ②ご本人を特定できない状態で開示する時 ③生活クラブの関連団体、提携先より回答することが望ましい場合



消費材の生産者を
産地で働いて支えよう



加工用トマト収穫の 計画的労働参加*を募集

生活クラブの消費材「信州トマトジュース」を利用していますか？

この消費材は、組合員が加工用トマトの収穫に直接参加してつくられています。

加工用トマトの収穫は、真夏の炎天下での作業になり、農家にとって大変な作業です。

産地の長野県飯綱高原でも、加工用トマトの生産者、作付面積は年々減少しています。

組合員が労働参加することで生産者を応援し、消費材の持続的な生産につながります。

ぜひご参加ください。

*計画的労働参加

組合員の労働参加に対し生産者から労賃が支払われ、その経費を消費材価格の一部として組合員が負担するしくみ。

消費者である組合員が生産現場を支えることで持続可能な農業を実現している点が評価され「ニュースウィーク日本版 SDGsアワード 2024」経済部門賞を受賞しました。

受賞についてはこちら▶



日程 8月17日(日)~19日(火) 2泊3日

場所 長野県飯綱高原

集合・解散 新宿駅西口

募集人数 10人(申込み多数の場合抽選)

申込方法 WEBでお申込み

申込締切 5月16日(金)



お申し込み

- ※交通・宿泊費などの補助や日当あり
- ※長靴・カップ等は持参ください
- ※宿の食事や昼食でのアレルギー食対応はできません
- ※宿泊は相部屋です
- ※高校生以下の参加は不可です

政策推進課 TEL:03-5426-5204



＼昨年参加した組合員からのコメント／

以前、計画的労働参加で加工用トマトの収穫に行った友だちから話を聞き、一度行ってみたいと思い応募しました。

飯綱高原は冷涼で空気がよく、花が多くいいところでした。加工用トマトを実際に見るのは初めて。果実は大きいのに地這いで、日焼け防止に藁がかけられているため気づきにくく、まるで草むらに隠れた鳥の巣のようで驚きました。

腰をかがめ、1つ1つの熟度を見極めながらの作業は重労働であることも実感。完熟し傷のないトマトで収穫かごをいっぱいにするのは大変な作業で、4人で半日頑張って200kgくらいの収穫量だったかと思います。加工用なので1kgあたり約50円、金額にして1万円という値段で、これにも衝撃を受けました。それでも手伝った畑の農家さんは、私たちの採ったトマトの汚れを拭いたり、傷や色などを見ながら、1個1個丁寧に検品作業をしていたのが印象に残っています。

私たちは、消費材を購入するという立場で買い支えていますが、私たちが希望する規格に沿い、安全で安心して食べられるものを作ってくれている農家さんに敬意を感じます。頑張っている農家さんのことを考えると、少しでも負担を軽減できるよう、参加する機会を増やしていただきたいと思います。



まち稲城
かいづか りつこ
貝塚 理津子さん

2025 年は国際協同組合年！

サステイナブルなひと、
生活クラブ

生活クラブは2025国際協同組合年に賛同しています



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

2025 年は、国連が定める国際協同組合年（IYC：International Year of Cooperatives）です。持続可能な開発目標（SDGs）への協同組合の貢献を評価し、2012 年に続き 2 度目の国際協同組合年となりました。持続可能な生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域の人々への医療・福祉、働きがいのある人間らしい仕事の創出、すべての人が参加できる社会づくりなど、さまざまな分野で協同組合の力が期待されています。世界には約 300 万の協同組合があり、世界の労働者の 10%が協同組合に雇用されているか、協同組合における労働者組合員です。紛争や分断、気候危機など世界規模で大きな課題が山積する中だからこそ、世界や日本各地の協同組合と連携し、よりよい世界をめざします。

生活クラブ東京の
最新情報を
WEB・SNS で発信中！

生活クラブ
＝ 東京 ＝



WEB サイト



Facebook



Instagram